

求めよ、探せ、たたけ

ルカの福音書 11 章 1-13 節

はじめに

今月のテーマは「デボーション」です。デボーションとは、毎日神様に祈り、聖書を読むことです。昨年は、デボーションについて二回説教しましたが、いずれも「聖書を読むこと」の大切さについてでした。今年は「祈ること」の大切さについて学びたいと思います。

今日開いたルカの福音書は、イエス様の祈る姿を強調していると言われます。イエス様はよく祈る方でした。よくひとりで荒野（ルカ 5：16）や山（ルカ 6：12）に行き、祈られました。そして、バプテスマを受ける時（ルカ 3：21）、十二弟子を選ぶ時（ルカ 6：12）、十字架に架かる時（ルカ 22：41）など特別な時にも祈って備えられました。

イエス様は日々静まって祈り、特別な時には祈って備えられました。イエス様の生涯は祈りによって支えられ、祈りこそイエス様の御業と知恵の原動力であったのです。イエス様ですら神様との祈りを必要としていたのですから、私たちにとって神様との祈りはどれだけ必要なものであるかが分かると思います。

イエス様の弟子たちは、イエス様の祈る姿を見て、「**私たちにも祈りを教えてください**」と言いました。今日の聖書箇所には、イエス様が教えた「祈り」について書かれています。

1. 神を愛し、神を第一にして祈ること

イエス様が祈りについて教えた第一のことは、2-4 節に書かれている「主の祈り」です。イエス様は、「**祈るときには、こう言いなさい**」と言われて「主の祈り」を教えられたのです。ルカの福音書の「主の祈り」は、五つの祈りから成っています。前半の二つは、「神様のための祈り」で、「**御名が聖なるものとされますように**」と「**御国が来ますように**」です。後半の三つの祈りは、「私たちのための祈り」で、「**私たちの日ごとの糧を、毎日お与えください**」と「**私たちの罪をお赦しください**」と「**私たちが試みにあわせないでください**」です。

イエス様は、私たちが自分のために何を祈るべきかを教えています。それは、①私たちの身体に必要な衣食住です。②私たちの魂に必要な罪の赦しです。③私たちが試練に耐え、誘惑から守られるように、です。

私たちは、自分のために、また他の人々の身体が必要、魂が必要、あらゆる災いから守られるために祈るべきです。しかし私たちは、自分のために、また他の人々のために祈る前に、神様のために祈らなければなりません。これが、イエス様が教えた祈りです。それは、自分よりも、他の人々よりも、神様を大切にすることです。神様を第一にし、

神様を愛する祈りであるということです。

聖書の中に、「**何事でも神のみこころにしたがって願うなら、神は聞いてくださるということ、これこそ神に対して私たちが抱いている確信です**」(ヨハネ 5:14)とあります。神様の御心にかなう願いとは何でしょうか。それは、神様を愛する祈り、神様を第一にする祈りです。また自己中心ではない祈りです。

私たちはまず、神様を第一に、神様を愛する祈りをささげなければなりません。その上で、私たちのための祈りをささげる、それこそ神様が聞いてくださる祈りです。

2. 忍耐して祈り続けること

イエス様が祈りについて教えた第二のことは、5-10節に書かれている「たとえ話」です。ある人の所に、友人が旅の途中に立ち寄りました。もてなしのためにパンを出してやりたかったけれども、ちょうどパンを切らしていた。真夜中だったので、買いに行くこともできない。そこで近所の友人に、真夜中であつたけれども、パンを貸してもらいに行った。ところが近所の友人には、子どもたちも寝ているし、面倒だからと言って断られてしまう。しかしあくまでもしつこく頼み続けるなら、近所の友人もパンを貸してくれるだろう、という「たとえ話」です。

この「たとえ話」では、祈り続けることの大切さが教えられているように思います。神様は、近所の友人のようではありません。旧約聖書には、神様は「**まどろむこともなく、眠ることもない**」(詩篇 121:4)とあります。神様は、いつでも目を覚まして私たちの祈りを聞いてくださる方です。

しかし近所の友人がすぐに願いを聞いてくれなかったのと同じように、神様は必ずしもすぐに祈りを聞いてくださる方ではありません。しかし神様は、眠いからとか、面倒くさいから祈りを聞いてくださらないわけではありません。神様には、神様なりの意味があるのです。神様は無意味に祈りを聞いてくださらないのではなく、意味があつて祈りを聞いてくださらないことがあるのです。

旧約聖書のイザヤ書に、こうあります。「**見よ。主の手が短くて救えないのではない。その耳が遠くて聞こえないのではない。むしろ、あなたがたの咎が、あなたがたと、あなたがたの神との仕切りとなり、あなたがたの罪が御顔を隠させ、聞いてくださらないようにしたのだ**」(イザヤ 59:1-2)。神様は全知全能な方です。神様にできないことは何もありません。私たちの祈りに、今すぐにでも答えることができる力の方です。しかし、それをしないのには意味があるのです。罪が原因の場合もあるでしょう。また私たちに忍耐を教え、成長させるためもあるでしょう。もっと良い別の道へと導くためでもあるでしょう。

神様が祈りに答えてくださらない時には、意味があるのです。そして神様が祈りに答えてくださるのには、時があるのです。私たちは祈り続ける必要があります。祈り続ける中で、その意味が教えられていくのです。

神様は、近所の友人とは違います。眠いからとか、面倒くさいから祈りに答えてくださ

る方ではありません。神様が祈りを答えてくださらないのには、意味があります。私たちのことを第一に考え、私たちにとって最善のものを、最善の時に与えてくださる方です。だからこそ私たちは、忍耐して祈り続けなければなりません。

3. 聖霊を求めて祈ること

イエス様が祈りについて教えた第三のことは、11-13節に書かれています。イエス様は、悪い父親であっても、子どもが魚を求めているのに、蛇を与えはしない。また子どもが卵を求めているのに、さそりを与えはしない。どんなに悪い父親であっても、自分の子どもには良いものを与える。だから私たちの父となってくださった神様が、私たちに良いものを与えてくれないはずはない、と教えています。

まず一つここで大切なことは、「主の祈り」でもあったように、私たちは祈る時に、神様を「父」と呼び、父親のような信頼をもって祈るべきだということです。しかし神様は、誰の父にでもなってくださるわけではありません。ヨハネ 1：12には、「**この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとなる特権をお与えになった**」とあります。この方とは、イエス様のことです。神様は、イエス様を信じ、受け入れた人をご自身の子どもとして受け入れてくださるのです。そして、イエス様を信じ、受け入れた人の祈りを聞いてくださるのです。イエス様は、ヨハネ 16：23で「**わたしの名によって父に求めるものは何でも、父はあなたがたに与えてくださいます**」と言われました。私たちが祈りの時に、「イエス様のお名前によってお祈りします」と祈るのは、神様は、イエス様を信じる人の祈りを聞いてくださるからです。

神様は、イエス様を信じる人をご自身の子どもとして受け入れてくださいます。そして、私たちにいつも「良いもの」を与えてくださいます。では、神様が私たちに与えてくださる「良いもの」とは何でしょうか。イエス様は 13節で、それは「**聖霊**」だと言われます。神様が私たちに与えてくださる最も「良いもの」は、聖霊だとイエス様は言われます。聖霊は、私たちに罪を示し、私たちに信仰を与え、私たちに新しく生まれ変わらせます。聖霊は、私たちに真理を教え、私たちの内に住み、私たちの人生を導いてくださいます。聖霊は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制の実を私たちの内に結ばせ、栄光から栄光へとイエス様と同じ姿に変えてくださいます。

私たちには、様々な祈りの課題があります。健康のため、家族のため、仕事のため、経済的な必要のためなど、様々です。しかし神様が私たちに、最も与えたいと思っているものは、聖霊なのです。聖霊は、イエス様の霊です。聖霊こそが、私たちにとって最も「良いもの」なのです。聖霊こそが、私たちが求めるべきもの、私たちの人生にとって不可欠なものなのです。聖霊が私たちの内にいて、私たちに満ちし、私たちに導いてくださるなら、どんな環境でも、どんな境遇の中でも生きていけるのです。

皆さんの中で、まだイエス様を信じていない方がおられたら、ぜひ聖霊を求めて祈ってください。聖霊は、あなたに罪を示し、あなたに神様の愛を注ぎ込み、イエス様を信じ受

け入れることができるように導いてくださいます。そして新しく神様の子どもとして、生まれ変わらせてくださいます。

すでにイエス様を信じている方も、ぜひ聖霊を求めて祈ってください。聖霊に導かれて歩めるように。聖霊に満たされて歩めるように。聖霊は、あなたの内に愛を始めとする御霊の実を結ばせ、イエス様を大胆に証しする者とし、イエス様と同じ姿へと変えてくださいます。

おわりに

新しい年が始まりました。ぜひこの一年間、祈る一年にさせていただきたいと思います。ヤコブ 3：2 には、「**あなたがたは、欲しても自分のものにならないと、人殺しをします。熱望しても手に入れることができないと、争ったり戦ったりします。自分のものにならないのは、あなたがたが求めないからです**」とあります。私たちは、何か手に入れたいものがあると、強引に手に入れようとします。しかし私たちは、まず祈りから始める必要があります。行動する前に、まず祈りから始める必要があります。イエス様もまず祈られました。

私たちは祈りの中で、神様を第一にし、神様を愛する祈りを大切にしなければなりません。私たちのための祈りよりもまず、神様のために祈らなければなりません。

また私たちは、祈り続けなければなりません。神様が祈りに答えてくださらないのには意味があります。神様に聞こえていないのでも、神様に力がないのでもありません。神様は、私たちが祈り続ける中で、その意味を教え、最善の時に最善のものを与えてくださいます。

私たちが求めるべきものは、何よりも聖霊です。聖霊によってイエス様を信じ、神様を父として歩めるように。聖霊によって満たされ、御霊の実を結び、イエス様と同じ姿に変えられ、イエス様を大胆に証ししていけるように。

イエス様は言われました。「**求めなさい。そうすれば与えられます。探しなさい。そうすれば見出します。たたきなさい。そうすれば開かれます。だれでも、求める者は手に入れ、探す者は見出し、たたく者には開かれます**」。

天におられる私たちの父なる神様。

あなたは、「求めなさい。探しなさい。たたきなさい」と言われ、私たちに祈ることを求めておられます。私たちには様々な必要があります。私たちにはどうすることもできない様々な問題があります。

しかしまず私たちが、聖霊を求めることができますように。イエス様を信じ、イエス様と共に歩むことを求めることができますように。そしてあなたを愛し、あなたを第一にする祈りがささげられますように。そしてたとえ祈りがすぐに答えられない時でも、あなたを信頼して、祈り続けることができますように。この一年間、祈りによってあなたとの交わりを深め、あなたの力を経験することができますように。あなたが今も生きている神

様であることを経験させていただきますように。

この祈りを私たちの救い主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。